

カテーテルによる大動脈弁置換術(TAVI)開始のお知らせ

新たな大動脈弁置換術

副病院長 兼 心臓・血管センター長 兼 臨床研修副センター長
兼 患者サポートセンター長 兼 臨床工学・技術センター長
船津 俊宏

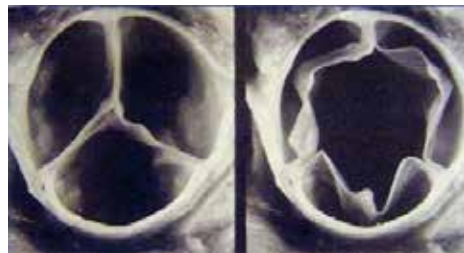
2023年冬号の当誌でもその着工をご紹介いたしました。昨年6月、りんくう総合医療センター手術センターに、第7室目の手術室として**ハイブリッド手術室**が完成いたしました。ハイブリッド手術室とは、X線透視装置を備えた手術室であり、従来の手術室にカテーテル検査室の機能を“組み合わせた”、という意味でハイブリッド手術室と呼ばれます。



▲ハイブリッド手術室と可動式透視装置

このX線透視装置は、これまで使用していたものに比べ、格段に高画質で細部までの繊細な画像が得られ、かつ3D機能や画像融合機能など多機能を搭載しています。このハイブリッド手術室で、脳神経外科、心臓血管外科、泌尿器科、循環器内科など複数の診療科の手術がすでにおこなわれており、高解像度の透視画像を用いた、より安全で高度な医療を提供しています。

このハイブリッド手術室の完成によって、その実施が最も期待された手術があり、それがこのたび当院で初めて可能となります。**経カテーテル大動脈弁置換術、いわゆる“TAVI”**と呼ばれる手術です。高齢者にしばしば発生する、大動脈弁狭窄症と呼ばれる心臓弁膜症があり、重症で放置するとやがて突然死や心不全など生命を脅かす疾患です。放置した場合の余命は、進行癌に匹敵すると言われています。これに対しての唯一の治療法はこれまで開胸や心停止を必要とする人工弁置換術でした。



▲正常弁



▲石灰化した大動脈弁狭窄症の弁

TAVIとはこのような開胸や心停止をおこなわずに、カテーテル手技を用いて人工弁を移植することができる手術で、高齢者や手術に耐える体力の乏しい患者さんに望ましい手術です。これまで当院ではそうした患者さんを、TAVIが実施できる他の病院へ紹介して手術を依頼しておりましたが、ハイブリッド手術室の完成により、いよいよ当院においてTAVIが可能となりました。

本年1月中には1例目を実施予定であり、今後本格的に症例数を重ねていく所存です。

これによって、泉佐野・泉南地域の医療拠点として皆さまの健康を預かるこのりんくう総合医療センターに、また新たな“武器”が備わることになりました。今後より一層、地域の皆さまの心臓病の克服に努めてまいります。

なお、大動脈弁狭窄症は、たとえ重症であっても無症状のことも多く、聴診による心雑音で比較的簡単に見つけられる病気です。かかりつけや検診などで、聴診を受けていただくことをぜひお勧めします。

TAVI手術と使用する人工弁（牛心膜弁）

